

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：金子純代（議長）
- ◆ 事務局：熊谷一樹 書記：中山遼平
- ◆ 出席者（順不同）：室橋紅里子 久保田悟 山田寛 平井淳一 小島広久 村井梨恵
上松慮生 小屋
- ◆ 19:05 開会 / 20:50 閉会

【協議事項】

- ◆ 大学対抗&U25 マッチについて
 - ・ 佐藤さんを中心に艇やスタッフの手配など大会準備を進めている。伊藝さんが協賛のお願いを担当し、キールボートチームのオーナーやセーリング関連企業など多数の協賛を頂いている。（村井）
 - ・ 引き続きスポンサーを募集しています。
 - ・ 当委員会から金曜3名、土日9名が運営の手伝いに行く予定。（金子）
 - ・ バルクヘッドマガジンも大会を取材予定。（平井）
 - ・ 山崎 JSAF 名誉会長、河野 JSAF 会長も大会期間中に日産マリーナを訪問予定。（中澤）
- ◆ 中日韓親善レガッタについて（中澤）
 - ・ 大会運営は伊藝さんに引き受けてもらうよう相談している。当委員でも協力していく。
 - ・ 大会日程は葉山マリーナ、NST 永島さんと調整中。9-11月が候補に挙がっている。
 - ・ 大会運営費用は概算で450万円となり、クルー1名につき2万円の参加費のほか、協賛金を募っている。
 - ・ 各艇につき船舶免許の所有者が1名は乗る予定。
 - ・ 親善レガッタの開催について外洋会議で報告した。

【報告事項】

- ・ 平成27年度事業計画及び予算案を理事会に提出した。（中澤）
- ・ 事業計画は、① JSAF に届くキールボート系海外招待レースへの出場チーム選考、キールボートナショナルチーム選考・支援及び代表チーム強化の環境構築、②セーリングパーク構想に向けた環境の開拓、推進、提案活動の実践、③キールボートワンデザインクラスの活性化に繋がる協力・支援活動、④大学対抗&U25 マッチレース開催に向けての支援協力活動、⑤ネイションズカップへの代表チーム派遣及び支援、の5つを骨子とする。
- ・ 予算案は事務費用のほか、ネイションズカップのエントリーフィー支援などを計上。
- ・ 1月24日に全国加盟団体代表者連絡会議が開催された。選手強化事業における滞在費の経理処理に関する説明などがあった。（中澤）

- ・ 2015年度より JSAF 会員登録システムが変更され、JSAF の HP 上で直接登録できるようになる。
- ・ 複数のクラスで活動しているセーラーの所属団体はどうするのか。JSAF への届出ではなく、所属協会の会員数を基準とするべきではないか。(山田)
- ・ JSAF 会員になる特典や魅力を今後充実させていくべきではないか。(中澤)
- ・ 特別加盟団体の区分けを実態に即して変えていく必要があるのではないか。(金子)
- ・ JSAF 登録数は昨年 12 月末時点で 1 万人を超えた。
- ・ 登録数はセーリング関係者の実人数とはかけ離れている印象がある。(小島・山田)
- ・ 実際に 1 万人台を維持、微増している側面もあるのではないか。(平井)

- ・ 1 月末に長崎で外洋会議が開催された。ジャパンカップや安全危機管理などについて話し合われた。(中澤)
- ・ 大学対抗&U25 マッチレースは非常に好評であった。
- ・ 海外キールボートレガッタへの日本チーム参加状況を報告した。ナンテ大学セーリングカップ、ネイションズカップ、インビテーションナルカップに日本チームが参加予定。
- ・ アジアパシフィック学生杯については、大学対抗&U25 マッチレースの優勝チームに権利が与えられることをもっと PR していくべきではないか。今後支援を検討する。
- ・ クルーのスカウトを兼ねて、大学対抗&U25 マッチレースに来るようキールボートチームのオーナーやクルーに向けて PR していく。
- ・ JSAF 国際委員会では、英会話ができる若手現役セーラーを人材募集している。ISAF 総会への出席、ロビー活動、情報交換、報告などが主な仕事。将来的にオリンピック準備委員会ともつながるのではないか。
- ・ JSAF 保険制度ワーキンググループより、保険制度がレース中は適用外の場合もあると注意喚起があった。大会主催者には主催者保険への加入を勧めている。
- ・ 2016 年より開催予定のアジアマッチレースサーキットに全日本マッチを組み込めないか、JYMA に打診があったとのこと。

- ・ オリンピックや世界選手権に向けて、国際 VHF 無線や海技免状の資格制度試験を簡素化・多言語化できないか。短期間の遠征チームにとっては非現実的だが、レース海面の資格免除特区の申請は、漁協との交渉など非常に難しい。(中澤、小島、山田、村井)
- ・ 救助用発信装置について、これまで誤作動が多く、総務省の使用許可がおりていない。今後まずは登山での使用が許可される可能性があるのではないか。(平井)
- ・ 和歌山のナショナルトレーニングセンターでは、国や県からの支援を背景に施設や艇が充実している。ディンギーレースを中心にレガッタを定点開催している。ハーバー作りの参考事例となるのではないか。(山田)

◆ 次回委員会の開催日：未定、決定次第 web 公開及びメール配信します。

◆ 議事録作成者：中山遼平 議事録署名人：中澤信夫